

科目名	GCB I						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	15時間	担当者	安藤 亮英/江藤 弘明/ 高木 愛/豊田 亮/横山 真太郎		
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験			
対象学科・学年	公務員専攻科1年						
授業概要	マナーと協力(協働)について学ぶ全8講座を、50分授業×15回で実施する。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○			○		キャリア実現の鍵は専門能力および発揮できる力(人間力)であることを理解できる。	
	○			○		感謝心が人間力の根底にあることを知ることができる。	
	○			○		人間力を高めるためのマナーの重要性に気づくことができる。	
テキスト・教材 参考図書	GCB I テキスト						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	第1講座 グローバル・シティズンを目指そう①					
	2	第1講座 グローバル・シティズンを目指そう②					
	3	第2講座 「協働」の態度を持った学生生活①					
	4	第2講座 「協働」の態度を持った学生生活②					
	5	第3講座 よりよい人間関係の構築に向けて モラル・マナーの重要性①					
	6	第3講座 よりよい人間関係の構築に向けて モラル・マナーの重要性②					
	7	第4講座 マナーの本質 I ①					
	8	第4講座 マナーの本質 I ②					
	9	第5講座 マナーの本質 II ①					
	10	第5講座 マナーの本質 II ②					
	11	第6講座 グローバル・シティズンとしての日常①					
	12	第6講座 グローバル・シティズンとしての日常②					
	13	第7講座 グローバル・シティズンとしての目標③					
	14	第7講座 グローバル・シティズンとしての目標④					
15	第8講座 グローバル・シティズンとしての「志」に向けて						
評価方法	講座受講後のレポートの提出によりR評価(合格)とする(成績評価、単位認定は後期のみとする)。 レポート未提出である場合は、D評価(不合格)とする。なお、遠隔授業に切り替わった場合は、上記の評価方法に代えて、レポート課題提出等の方法を採用することがある。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	レポート課題	◎			○		100%
履修上の注意	社会情勢の変化に伴い、回によって遠隔授業に切り替えて講義等を行う場合がある。						

科目名	ビジネス実務						
科目名(英)							
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	安藤 亮英/江藤 弘明/ 高木 愛/豊田 亮/横山 真太郎		
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験			
対象学科・学年	公務員専攻科1年						
授業概要	社会生活を行うについての法律、一般教養、又はコミュニケーションの知識を学び体験することにより、見識を深める。危険回避のための講座、一般的教養を高めるための講座、コミュニケーションを高めるための講座等を実施する。11/14～12/16までの期間で実施する全60時間に下記「授業計画」に示した講座を設定する。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					講座を通して社会生活に活用できる知識を得る。	
テキスト・教材 参考図書	・授業時に配布するプリント ・『30時間でマスター Word&Excel 2019』(実教出版、2019年)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	【社会制度・危険回避講座】①青少年法律(消費者トラブル)講座					
	2	【社会制度・危険回避講座】②スマホ安全講座					
	3	【社会制度・危険回避講座】③金融経済セミナー(資産運用・生活設計)講座					
	4	【一般教養講座】①パソコン講座					
	5	【一般教養講座】②ペン字講座					
	6	【一般教養講座】③ビジネスマナー講座					
	7	【一般教養講座】④キャリア形成講座					
	8	【一般教養講座】⑤資金に関する講座					
	9	【一般教養講座】⑥基礎体力向上トレーニング講座					
	10	【コミュニケーション力向上講座】①英会話講座					
	11	【コミュニケーション力向上講座】②手話講座					
	12	【コミュニケーション力向上講座】③レクリエーション講座					
	13	【コミュニケーション力向上講座】④コミュニケーションツールとしての手品(マジック)講座					
評価方法	レポート提出により評価する。評価条件を満たしている場合にはR評価(合格)とし、満たさない場合にはD評価(不合格)とする。なお、遠隔授業に切り替わった場合は、上記の評価方法に代えて、レポート課題提出等の方法を採用することがある。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	レポート課題	◎	◎				100%
履修上の注意	社会情勢の変化に伴い、回によって遠隔授業に切り替えて講義等を行う場合がある。						